

科目名 クラス 講義区分	科目ナンバリング	曜日	科目名 クラス 講義区分	科目ナンバリング	曜日
働き方とジェンダー <秋>	SOC3420	木2			

【教員氏名】

村上 あかね
 ・研究室：聖アンデレ館9階916号室
 ・オフィスアワー：月5限
 ・メールアドレス：amurakami@andrew.ac.jp

【単位数】

2 単位

【授業形態】

『講義』『アクティブラーニング』『グループワーク』『実務経験のある教員による授業①』（政府および地方自治体の委員経験を持つ教員が政府および地方自治体の政策について解説・講義する）

【講義・演習概要】

生物学的な性のあり方（セックス）に対して、社会的・文化的・心理的な性のあり方をジェンダーとよぶ。

ジェンダー論を学ぶことは、グローバル化する社会の「世界市民」にとって基本的な教養といえる。結婚や出産によって女性が仕事を辞めることは当たり前なのだろうか？どうすれば男女とも働きやすい社会になるのだろうか？このような身近な疑問から出発し、自分が当たり前だと思っている「男らしさ」や「女らしさ」を見直すことに挑戦することで、社会の見方が変わるだろう。

これまで学んだ社会学の理論・学説だけではなく、経済学、人口学、人類学などの理論・学説も応用しながら、なぜかを徹底的に考え、知的な喜びを味わう授業とする。毎回、授業中にA4用紙1枚分のコメントを書くことを求めるので、受講にあたっては知的好奇心と知的柔軟性に満ちた積極的な姿勢を望む。グループディスカッション、ディベートやロールプレイングも行う。

【学習（到達）目標】

この講義の目標は、以下の3点である。

1. 学校・家庭・職場のうち、とくに職場に焦点をあてて、私たちの働き方がジェンダーと関係がある現実を知り、その背後にあるメカニズムを理解する。
2. ジェンダーの問題を理解するために必要な用語やものの見方を学び、自分でも使えるようになる。
3. 性別役割分業体制が根強い日本では、女性だけではなく男性も困難な状況におかれていることを理解し、性別にかかわらず一人ひとりの違いを尊重できる社会を築くためにはどうすればよいか、問題を解決するための視点を養う。

【講義・演習計画】

- 第1回：イントロダクション①：日本社会とジェンダー～世界の中の日本
- 第2回：イントロダクション②：男らしさ、女らしさとはなにか～あらためて考えてみる
- 第3回：若者の「〇〇離れ」～それはなぜ起こったか
- 第4回：仕事の若者離れ～なぜ若者の就職は大変なのか
- 第5回：社会の現実～こんなに違う男女の働き方
- 第6回：日本社会の仕組み～日本型企業社会とは何か
- 第7回：専業主婦の誕生～高度経済成長期の発明品
- 第8回：男女間賃金格差の実態～女性にとって働きやすくなったのか
- 第9回：福利厚生史の歴史とこれから～正社員と非正社員の待遇格差を考える
- 第10回：こんなときどうする～セクハラ・マタハラ・パワハラにあわないために
- 第11回：素朴な疑問～なぜブラック企業も長時間労働もなくなるのか
- 第12回：世界の働き方を知ろう～ワークライフバランスはなぜ必要か
- 第13回：これからの日本に起こること～職場に「ガイコクジン」がやってくる
- 第14回：あなた自身のキャリアを考えよう～どうしたいか考える
- 第15回：まとめ：これまでの学習を振り返って

【成績評価の方法】

試験評価：100%

【テキスト】

小平麻衣子・氷見直子：『書いて考えるジェンダー・スタディーズ』（新水社）

【参考文献】

授業中に指示する。

【事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 事後学習 30 時間）】

毎日、新聞を読んだり、ニュースを見ておいてください。社会学科基礎演習で学んだ「レポートの書き方」を復習しておいてください。

【キーワード】

ジェンダー、男らしさ・女らしさ、ダイバーシティ（多様性）、日本型企業社会

【備考（管理者用）】

（旧：ジェンダー論）1～18SS・17～18SW生読替☆（旧：社会学特講－ジェンダー論）2～9SS生読替